

学校評価シート（自己評価）

草加氷川幼稚園

令和3年度分

1、園の教育目標

生きる力の基礎となる心情・意欲・態度を友達や教師と一緒に楽しく充実した幼稚園生活を送る中で養い、自己を形成していくことを目指す。そのために、子どもとの信頼関係を十分に築くこと、よりよい教育環境を構成することに努め取り組む。

本園の教育目標として、次の4つの項目を掲げる。

- 1、明るくのびのびとした子
- 2、やさしい豊かな心の子
- 3、考える子
- 4、規律正しい子

2、具体的な目標や計画

各項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、教師自ら客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育内容の改善に主体的に取り組む、コロナ禍の中でも知恵を出し工夫をし、子どもたちの生活の場を維持することを重点項目とする。

3、評価項目の取組及び達成状況

評価項目	結果(※)	結果の理由
I 保育の計画性	A(2.45)	子どもの実態に即した内容にするために話し合いを重ね、教育計画に加筆、訂正を行いながら進め、努めることができた。昨年度はコロナ対策から、計画段階で安全に関してが最優先項目となっていたが、少し余裕を持ち検討できた。
II 保育の在り方	A(2.52)	学年、クラスにより異なってくるものの、各自日々の記録や連携を意識し取り組み、主任を中心に学年内での差異が生じないように努めている。
III 教師の姿勢	A(2.60)	幼稚園教諭として、子どもたちにとって教員が大きな環境であるということを意識し関わる事が出来ていた。
IV 保護者対応	A(2.39)	保護者との関わりが減少し、難しさもあったが、便りの発信について、より丁寧にこまめに行うことが出来た。それらを通して保護者との信頼関係の構築に努めることができた。
V 地域等関わり	B(1.96)	例年でいくと、学期により意識の違いが表れるが、地域や小学校との交流も中止となり年間を通して低い結果となった。
VI 研修・研究	B(1.97)	コロナ禍の影響から、研修会数が減り結果として表れている。しかし、オンライン研修や僅かな機会の際は情報提供を行う等により、各自積極的に研修に努めた。

4、具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
A(2.31)	コロナ禍の中ではあったが、状況に応じて適切に、かつ、今できる最善の方策を考え実施し、自己点検・自己評価に取り組んでいた。

結果 (※) について

A(2.1～3)	十分達成されている
B(1.1～2)	達成されている
C(0.1～1)	取り組まれているが成果が十分ではない

5、今後取り組むべき課題

課 題	
情報公開の方法	現在、園だより・保育参観日・園行事等を通して保護者へ幼稚園の情報を提供しているが、保育参観や園行事については実施回数が減っている。そのため、子どもたちの活動の姿を動画配信した。効果については見えない部分もある。また、情報公開として一般の方が利用しやすいホームページ等の活用も積極的に行い情報発信について検討していく。
自己点検、自己評価	各教職員に対し、最低限こうしてほしいといった基本の項目を点検課題として挙げ具体的に自己評価項目に加えていく。各教職員においては向上心を持ち自己研鑽に取り組むようにしていく。
教育計画の編成	新教育要領に基づいた計画作成のために既存の教育計画に訂正、加筆をさらに加え、園を取り巻く環境や子どもの実態に即した新たな計画編成に取り組んでいく。 幼児教育における、ICTの活用についても子どもの実態を踏まえ推進、検討し生かしていくよう取り組んでいく。
未就園児事業の拡充	満3歳児入園希望をする保護者が増加している。このことに対応するため、クラス数を増やし、一定の受け入れを行うための人員、環境整備に取り組んでいく。